

## 就職活動を意識した目標設定と振り返り支援システム

内田 祐貴<sup>†</sup> 高木 正則<sup>†</sup> 山田 敬三<sup>†</sup> 佐々木 淳<sup>†</sup>

岩手県立大学ソフトウェア情報学部<sup>†</sup>

### 1. はじめに

近年、自分の好きなことができる仕事に就いているのは「約3人に1人」とも言われており、職業を選択する基準と現実とのギャップが大きく、職業選択におけるミスマッチが発生している[1]。これは採用側と学生側の両方に問題があると思われるが、学生がより深く自己分析を行い、自分の仕事観を確立して企業研究することが重要である。著者らはこれまで、eポートフォリオを活用して自己の成長要因を抽出し、就職活動に役立つための支援システムを提案してきた[2]。しかし、就職活動を意識した目標設定や具体的な振り返りを支援するシステムにはなっていない。そこで、本研究では学生の職業選択におけるミスマッチを防ぐことを目的とし、就職活動に向けた目標設定と振り返り支援システムを提案する。本稿では、提案システムの概要と本システムを活用した企業選択に役立つ「気付き（自己発見）」が得られる仕組みについて述べる。

### 2. 目標設定と振り返り支援システム

#### 2.1 システムの概要

本システムの概要と利用手順を図1に示す。システム設計のポイントは、目標設定(P)、成果物及び活動の記録(D)、自己評価(C)、改善および目標の再設定(A)のPDCAサイクルを回すことにある。以下、図1中の①～⑩を説明する。

①ユーザが興味のある企業を登録する。②その企業が求める人材像を企業DBから検索し、③検索された求める人材像の情報か

ら求める能力を抽出する。④抽出した能力の一覧をメタ情報リストとして取得し、⑤表示する。⑥ユーザは自身で不足に感じている能力を選択し、その能力を習得する期日を選択し、⑦eポートフォリオ上に登録する。⑧学生がその能力を習得するために行った取組や成果物に関連する能力をタグ付けしてシステムに登録する。能力習得の期日になったら、目標に対する評価と改善点の登録を行う。評価の際には、⑨eポートフォリオに登録されている内容を検索し、成長要因、自己評価、他者評価の3つの観点から評価する。成長要因とは、個人が自身の成長に繋がったと判断した成果物や活動内容(レポート、部活・サークル、ボランティア、アルバイト、資格)である。なお、成長に繋がったかどうかは、諸活動取組時の思考過程や感情、他者からのコメント(気付き)を取得して判断されたものとする[2]。⑩上記振り返りを基にユーザが登録した改善点から、新たな目標を再設定し、成果物の蓄積、振り返りを繰り返す。

#### 2.2 企業DB・能力DBの構築方法

図1中の企業DBには、②まず希望する企業が求める人材像をHPなどからコピーして入力する。③この企業情報からYahooで公開されているキーワード抽出APIを用いて特徴語を自動抽出する。抽出した特徴語の中から、企業が求める能力を能力DBに蓄積する。

著者が所属する大学におけるeポートフォリオに蓄積する成果物とサンプルとして調査した企業(A社)から抽出された能力の例を表1に示す。eポートフォリオに蓄積された成果物に対する自己評価と改善点の例を表2に示す。このように、成果物と能力の対応関係がある程度紐づけられるこ

A Goal Setting and Reflection Support System for Career Exploration

<sup>†</sup>Yuki UCHIDA, Masanori TAKAGI, Keizo YAMADA, Jun SASAKI, Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

と、自己評価と改善点の記入ができたことから、本提案の実現可能性を確認することができた。本システムによる PDCA サイクルを回すことで必要なスキルが習得できると期待される。

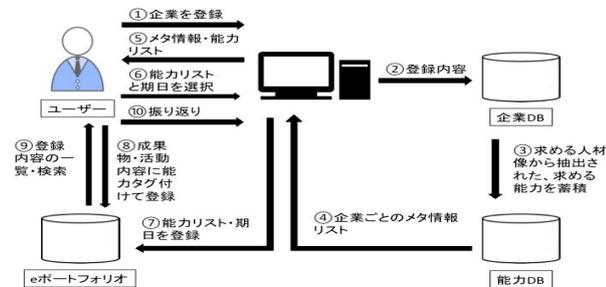


図1 本システムの利用手順

表1 蓄積する成果物と付与する能力の例

蓄積する成果物例	A社：抽出された能力	蓄積する成果物例
インターンシップ報告書	積極度	インターンシップ報告書
論文、研究成果物、レポート	論理性	論文、研究成果物、レポート

表2 成果物に対する自己評価と改善点の例

成果物や諸活動（成長要因）	評価（1~5）	改善点
目標に対し自ら行動することで積極性を伸ばすことができた。	5	継続して行動を心がける。
学会に投稿する論文を執筆した。論文を書く過程で論理的な思考を高めることができた。	3	他者とのディスカッションを踏まえて論理性を伸ばす。

### 3. プロトタイプシステムの開発

現在、著者が所属する大学での利用を想定したプロトタイプシステムを開発した。プロトタイプシステムの開発環境を表3に示す。また、構築する能力DBの例を表4に示す。本システムが表示した企業の事前登録の画面例を図2に示す。企業が求める人材像のテキストデータから特徴語とそのスコア（重要度）が表示される。また、成果物を投稿する際には、この特徴語のチェックボックスにチェックを入れることで、タグ付けがされる。

表3 開発環境

Webサーバ	Apache2.4
--------	-----------

DBMS	MySQL5.7
Script	Ruby2.2
フレームワーク	Ruby on Rails4.2
eポートフォリオ	Confluence 5.9.2

表4 能力DBの一例

A社の求める能力	B社の求める能力
誠実さ	行動力
コミュニケーション能力	チャレンジ精神
協調性	意識



図2 企業事前登録と成果物投稿の画面例

### 4. おわりに

本研究では学生の職業選択におけるミスマッチの防止を目的とし、就職活動に向けた目標設定と振り返り支援システムを提案し、プロトタイプシステムを開発した。本システムでは、企業が求める人材像から必要な能力がわかり、より具体的な振り返りができるとともに、PDCAサイクルによって継続的に利用することで必要なスキルが身につく仕組みを有している。今後はプロトタイプシステムの完成と改良、利用方法の確立と、システムの有効性について評価を行っていく。

### 参考文献

- [1]堀田聰子：採用時点におけるミスマッチを軽減する採用のあり方，日本労働研究雑誌，No.567，p.60-75(2007)
- [2]中島裕聡，高木正則，山田敬三，佐々木淳：eポートフォリオからの成長要因抽出支援システムの開発，情報処理学会第75回全国大会，pp.4-649-4-650(2013)